

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-209232

(P2007-209232A)

(43) 公開日 平成19年8月23日(2007.8.23)

(51) Int. Cl.

A01K 13/00 (2006.01)

F I

A01K 13/00

F

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2006-30731 (P2006-30731)

(22) 出願日 平成18年2月8日(2006.2.8)

(71) 出願人 502401116

高橋自動車販売株式会社

愛知県岡崎市錦町1番地15

(74) 代理人 100111682

弁理士 武山 孝和

(72) 発明者 三輪 和正

愛知県岡崎市日名西町11番地34

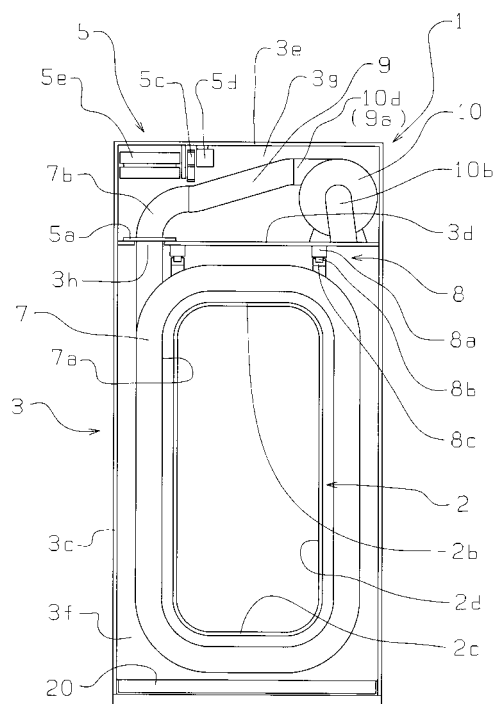
(54) 【発明の名称】 ペットの乾燥機

(57) 【要約】

【課題】 飼い主やトリマーなどに負担をかけず、短時間に効率よく大型のペットを乾燥させることができるペットの乾燥機1であって、ほぼ扉1枚分の開きが得られる引き戸及び片開きの開き戸などの普通の扉から部屋の中に搬入出することを可能にしたペットの乾燥機1を提供することにある。

【解決手段】 ペットを格納可能な大きさを有する籠2であって、開孔率50%以上の部材で胴部を構成した籠2を横にして設置し、籠2の胴部の外周を略環状に取り巻くノズルダクト7を設けてその内側面7aにノズルを配置する。そしてヒータで暖めた空気をブロア10によりノズルダクト7に送風しつつ、ノズルダクト7が籠2の胴部の前方部2aと後方部2bの間を移動するように構成する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

筒状の籠であって 50% 以上の開孔率を有する部材で胴部を構成した籠と、前記籠の胴部の外周を略環状に取り巻くダクトであって内側面にノズルを設けたノズルダクトを有し、前記ノズルダクトが前記胴部の前方部と後方部の間を移動することを可能に保持し、さらに前記ノズルダクトを移動させる駆動装置と、前記ノズルダクトに空気を送風するブロアと、前記ブロアで送風する空気を暖めるヒータとを有することを特徴とするペットの乾燥機。

【請求項 2】

請求項 1 に記載したペットの乾燥機において、籠の胴部の断面が水平方向の幅寸法より垂直方向の高さ寸法の方を大きくした断面（以下単に「縦長断面」という。）を有するものとし、前記籠の前方部と後方部の両方にそれぞれ開口を設けたことを特徴とするペットの乾燥機。 10

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 のいずれかに記載したペットの乾燥機において、装置を囲うケーシングと前記ケーシングの仕切を設け、前記ケーシングの一方を乾燥室として籠とノズルダクトを取り付け、他方を機械室としてブロアを取り付けたことを特徴とするペットの乾燥機。

【請求項 4】

請求項 3 に記載したペットの乾燥機において、仕切にスリットを設け、ブロアからノズルダクトへのダクト配管が前記スリットを貫通するようにし、ノズルダクトの移動に伴い前記ダクト配管も移動可能な構成とし、前記スリットの隙間を塞ぐ蓋を設けたことを特徴とするペットの乾燥機。 20

【請求項 5】

請求項 4 に記載したペットの乾燥機において、可撓性のある部材をエンドレスにつないだ蓋によりスリットを塞いだことを特徴とするペットの乾燥機。

【請求項 6】

請求項 3 に記載したペットの乾燥機において、仕切にスリットを設け、前記スリットの上に中継ダクトを設けてこれとブロアとをダクト配管でつなぎ、可撓性のある部材をエンドレスにつないだ蓋により前記スリットの隙間を塞ぎ、前記蓋に取り付けたダクトにより前記中継ダクトとノズルダクトとの間をつないだことを特徴とするペットの乾燥機。 30

【請求項 7】

請求項 5 又は請求項 6 のいずれかに記載したペットの乾燥機において、可撓性のある部材をエンドレスにつないだ蓋を駆動装置により走行させ、前記蓋の走行に伴いノズルダクトを移動させる構成としたことを特徴とするペットの乾燥機。

【請求項 8】

請求項 3 ～ 請求項 7 のいずれかに記載したペットの乾燥機において、乾燥室と機械室の両方にそれぞれ換気用の開口を設け、さらに前記乾燥室の空気をブロアの吸込口に供給する吸込ダクトを設けたことを特徴とするペットの乾燥機。

【請求項 9】

請求項 3 ～ 請求項 8 のいずれかに記載したペットの乾燥機において、籠の前方部及び後方部の開口に合わせ、ケーシングの前面及び後面の両方の面に扉を設けたことを特徴とするペットの乾燥機。 40

【請求項 10】

請求項 9 に記載したペットの乾燥機において、少なくとも一方の扉にペットが外に顔を出すことを可能とする首穴を設けたことを特徴とするペットの乾燥機。

【請求項 11】

請求項 10 に記載したペットの乾燥機において、扉が上下方向に長大な長穴を有するものとし、前記扉に穴を有する首穴板を重ね、前記長穴と前記穴とで構成する開口を首穴としたことを特徴とするペットの乾燥機。 50

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、家庭で飼育するペットを洗った後に各家庭においてペットを乾かすために使用することに適したペットの乾燥機、及びトリミング店や獣医などがペットを洗った後にペットを乾かすために使用することに適したペットの乾燥機に関する。

特に、大型のペットを乾燥することが可能であって、ほぼ扉1枚分の開きが得られる引き戸や片開きのドアなど（以下単に「普通の扉」という。）から搬入出することが可能なペットの乾燥機に関する。

【背景技術】

10

【0002】

家庭の屋内で犬、猫、ウサギ、フェレットなどをペットとして飼育している場合や、トリミング店や獣医では頻繁にペットを洗うことが行われている。通常ペットを洗うときはペットを洗った後にタオルで拭き、その後ドライヤーを使用して温風を吹き付けてペットを乾燥させていた。

しかし体全体に長い毛を有するペットの場合は、乾燥のために長時間を要する問題があった。また、ペットはおとなしくじっとしていることは少なく常に動くため、ペットを静止させるために手間がかかり飼い主やトリマーなどの大きな負担となっていた。さらに、ペットから抜け落ちた毛が舞いあがり部屋の中に毛が散乱して掃除の手間がかかる問題を有していた。

20

飼い主やトリマーなどに負担をかけず短時間に効率よくペットの乾燥を可能としたものとして、ケージングの中に設けた開口率の高い部材からなる概略円筒形状の籠の中にペットを格納し、籠の概略円筒面の外側を公転するノズルダクトを設け、ヒータで暖めた温風をノズルからペットに向かって吹き出させるペットの乾燥機があった（例えば、特許文献1、2、3参照。）

しかし、これらのペットの乾燥機を大型のペットに合わせたサイズにすると、乾燥機の幅が大きくなり、扉複数枚分の開きが得られる引き戸や両開きのドアなどからは搬入出することが可能であっても、普通の扉から部屋の中に搬入出することができなくなる問題があった。

【特許文献1】実用新案登録第3112779号

30

【特許文献2】実用新案登録第3113155号

【特許文献3】実用新案登録第3115659号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

本発明の目的は、飼い主やトリマーなどに負担をかけず、短時間に効率よく大型のペットを乾燥させることができるペットの乾燥機であって、普通の扉から部屋の中に搬入出することを可能にしたペットの乾燥機を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0004】

40

ペットを格納可能な大きさを有する筒状の籠であって、50%以上の開孔率を有する部材で胴部を構成した籠を水平に設置し、籠の胴部の外周を略環状に取り巻くノズルダクトを設けてその内側面にノズルを配置し、ノズルダクトに暖めた空気を送風し、上下左右、斜め上から、斜め下からなど数多くの方向からペットに温風を吹き付けつつ、ノズルダクトが籠の胴部の前方部と後方部の間を移動するように構成する。

【発明の効果】

【0005】

本発明により、飼い主やトリマーなどに負担をかけず、短時間に効率的にペットを乾燥させることを可能としたペットの乾燥機を提供することができた。

自然な姿においてペットを正面から見た場合、多くのペットは横幅に比べ高さの方が大

50

きなサイズを有している。本発明では籠の胴部の断面が水平方向の幅寸法より垂直方向の高さ寸法の方を大きくした断面（以下単に「縦長断面」という。）にすることが可能なため、乾燥機の幅を小さくして普通の扉から搬入出可能なペットの乾燥機を提供することができた。

また、本発明によりノズルとペットの体の距離を短く設定することが可能である。このため、ペットに吹き付ける温風が空気抵抗により減速することが少なく、エネルギー効率の高いペットの乾燥機を提供することができた。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

請求項1の発明は、筒状の籠であって50%以上の開孔率を有する部材で胴部を構成した籠と、前記籠の胴部の外周を略環状に取り巻くダクトであって内側面にノズルを設けたノズルダクトを有し、前記ノズルダクトが前記胴部の前方部と後方部の間を移動することを可能に保持し、さらに前記ノズルダクトを移動させる駆動装置と、前記ノズルダクトに空気を送風するブロアと、前記ブロアで送風する空気を暖めるヒータとを有するペットの乾燥機とする。 10

籠はペットを格納可能な大きさを有するものとし、胴部を横にして取り付け、前方部又は後方部のいずれか一方又は両方に開口を設けてペットを籠の中に入出力可能にする。

籠の胴部の材料としては打ち抜き材料、網状の材料、格子状の材料、簀の子状の材料、エキスパンドメタル状の材料などが考えられ、胴部の全面積に対する空間の比率である開孔率が50%以上になるようにする。開孔率は60%、70%、80%、90%と高くすれば高いほど良く、可能な限り開孔率を100%に近づけることが好ましい。 20

しかし、開孔率を高くするために過度に目の粗い材料でペットの足が乗る部分を構成するとペットが足を踏み外す問題が生じる。かかる場合は、ペットの足が乗る部分のみ開孔率の低い材料として、他の部分に開孔率の高い部材を用いることにより、全体として高い開孔率を有する胴部とする方法は有効である。

ノズルダクトは籠の胴部を略環状に取り巻くように配置するが、実質的に籠の胴部を取り巻けばよく途中に途切れる部分があっても構わない。そして、ノズルダクトの籠側の面となる内側面にノズルを設ける。

ノズルは多数の穴で構成しても、複数の長穴で構成しても、断面積縮小型のノズルを多数取り付けてもよい。ノズルはペットの体に対し上下左右、斜め上、斜め下など可能な限り全方向から温風を吹き付けるように配置することが好ましい。 30

ノズルダクトを移動可能に保持する構成としては、ノズルダクトに車輪を取り付ける構成や、軸にガイドされたブッシュにノズルダクトを取り付ける構成や、直線ガイドでノズルダクトを保持する構成などがある。

ノズルダクトを移動させる方法としては、ノズルダクトに取り付けた車輪をモータで駆動する方法や、油圧や空圧や電動などのシリンダでノズルダクトを押し引きする方法や、ボールネジをモータで回転させてボールネジナットにノズルダクトを取り付ける方法などがある。

また、ワイヤやロープやチェーンやベルトなどの引っ張り部材を巻取り装置と巻出し装置の組み合わせで走行させ、あるいは引っ張り部材をエンドレスにつないで走行させて、ノズルダクトを引っ張り部材に取り付ける方法などがある。 40

ブロアとノズルダクトの間にはダクト配管を設けるが、ノズルダクトを移動可能にするためその一部にフレキシブルな可撓性ダクトを使用する方法や、スリットを有する中継ダクトを設けて、スリットの蓋と共にノズルダクトを移動させる方法など好ましい。ヒータはブロアの吸込口に設けても、ブロアの吹出口に設けても、ダクト配管の途中に設けても、ノズルダクトの入り口に設けても構わない。

【0007】

請求項2の発明は、請求項1に記載したペットの乾燥機において、籠の胴部の断面が縦長断面を有するものとし、前記籠の前方部と後方部の両方に開口を設けたペットの乾燥機とする。

籠の胴部の断面形状を楕円形状、小判形状、長方形形状などにすれば容易に縦長断面を得ることができる。また、籠の前方部と後方部の開口にはそれぞれ扉を設ける。ペットを出し入れさせるには籠の前方部と後方部が好ましいからである。

自然な姿においてペットを正面から見た場合、多くのペットは横幅に比べ高さの方が大きなサイズを有しているため、横幅を小さくしたペットの乾燥機とすることが可能であり、籠の横幅を小さくしたペットの乾燥機とすることにより、普通の扉から部屋の中に搬入出することを可能にしたペットの乾燥機を提供することが可能になるからである。

籠の胴の幅を狭くするとペットが中でUターンすることができなくなったり、ペットが籠の中にはいることをいやがる場合があるが、入り口と反対側に扉があればUターンする必要がなくなり、反対側の扉から飼い主が声をかければおとなしく籠の中に入る効果が得られるからである。 10

請求項3の発明は、請求項1又は請求項2のいずれかに記載したペットの乾燥機において、装置を囲うケーシングと前記ケーシングの仕切を設け、前記ケーシングの一方を乾燥室として籠とノズルダクトを取り付け、他方を機械室としてフロアを取り付けたペットの乾燥機とする。

ケーシングで装置を囲い、仕切により乾燥室と機械室とを分離することにより、温風を循環させて熱エネルギーの効率を高めることができ、またペットの毛など乾燥室で発生する塵埃が外に出たり機械室に入ることを防止して、塵埃がペットの乾燥機の回りを汚したり、塵埃により発生する機構部のトラブルを防ぐことができるからである。

フロアとノズルダクトの間のダクト配管において、固定したダクトにより仕切を貫通する場合には、フロアから仕切までのダクト配管については固定の配管とし、仕切からノズルダクトまでのダクト配管を可撓性ダクトとする構成が好ましい。 20

請求項4の発明は、請求項3に記載したペットの乾燥機において、仕切にスリットを設け、フロアからノズルダクトへのダクト配管が前記スリットを貫通するようにし、ノズルダクトの移動に伴い前記ダクト配管も移動可能な構成とし、前記スリットの隙間を塞ぐ蓋を設けたペットの乾燥機とする。

本発明は、ダクト配管が仕切に設けたスリットを貫通する構成としたものである。スリットはダクト配管が移動するため長尺な開口にして、ダクト配管が貫通する部分以外の開口を塞ぐための蓋を設けたものである。

蓋はベルトやゴム板やよろい戸と呼ばれるシャッタなど可撓性のある部材をダクト配管の両側に取り付け、両端に巻取り巻戻し装置を取り付ける構成としたり、ダクト配管の両側に蛇腹や多段式のスライドドアを取り付ける構成とすることが好ましい。 30

【0008】

請求項5の発明は、請求項4に記載したペットの乾燥機において、可撓性のある部材をエンドレスにつないだ蓋によりスリットを塞いだペットの乾燥機とする。

可撓性のある部材をエンドレスにつないだ蓋とすることにより、巻取り巻戻し装置を不要とすることができ、蛇腹や多段式のスライドドアの格納スペースを省略することができるため、小型で単純なペットの乾燥機とすることができるからである。

請求項6の発明は、請求項3に記載したペットの乾燥機において、仕切にスリットを設け、前記スリットの上に中継ダクトを設けてこれとフロアとをダクト配管でつなぎ、可撓性のある部材をエンドレスにつないだ蓋により前記スリットの隙間を塞ぎ、前記蓋に取り付けたダクトにより前記中継ダクトとノズルダクトとの間をつないだペットの乾燥機とする。 40

スリットの上に下側を開放した中継カバーを設け、中継カバーと仕切とで中継ダクトを構成し、蓋に取り付けた剛性を有するダクトをノズルダクトに連結し、ノズルダクトの移動に伴い蓋も移動するように構成することが好ましい。本発明により、特に耐久性に優れたダクト配管が可能になった。

請求項7の発明は、請求項5又は請求項6のいずれかに記載したペットの乾燥機において、可撓性のある部材をエンドレスにつないだ蓋を駆動装置により走行させ、前記蓋の走行に伴いノズルダクトを移動させる構成としたペットの乾燥機とする。 50

本発明は、ノズルダクトに取り付けたダクトに剛性を持たせて蓋を貫通させ、蓋を走行させることにより蓋と共にノズルダクトも走行するように構成したものである。駆動装置としてはモータで駆動するローラを使用してベルトを走行させる装置や、シリンダによりゴム板を走行させる装置や、シャッタにチェーンを取り付けてチェーンホイールを介してチェーンをモータで駆動する装置など考えられる。

請求項 8 の発明は、請求項 3 ～ 請求項 7 のいずれかに記載したペットの乾燥機において、乾燥室と機械室の両方にそれぞれ換気用の開口を設け、さらに前記乾燥室の空気をブローの吸込口に供給する吸込ダクトを設けたペットの乾燥機とする。

乾燥室に換気用の開口を設けたのは乾燥室の空気の湿度が高くならないように換気するためである。乾燥室の中の空気にはペットの毛などの塵埃が含まれるので、乾燥室の開口には網を張りペットの毛などの塵埃が外に出ないようにすることが好ましい。

機械室に換気用の開口を設けたのは、乾燥室の中の空気と外気を導入した機械室の中の空気とを適宜混合することにより、ペットに吹き付ける温風の湿度を下げるようにしたものである。このとき機械室の開口にはフィルタを取り付けて塵埃が入ることを防止することが好ましい。

【 0 0 0 9 】

請求項 9 の発明は、請求項 3 ～ 請求項 8 のいずれかに記載したペットの乾燥機において、籠の前方部及び後方部の開口に合わせ、ケーシングの前面及び後面の両方の面に扉を設けたペットの乾燥機とする。ペットを出入りさせるには籠の前方部と後方部が好ましいからである。

また、籠の胴の幅を狭くするとペットが中で U ターンすることができなくなったり、ペットが籠の中にはいることをいやがる場合があるが、入り口と反対側にも扉があれば U ターンする必要がなくなり、反対側の扉から飼い主が声をかければおとなしく籠の中に入る効果が得られるからである。

請求項 10 の発明は、請求項 9 に記載したペットの乾燥機において、少なくとも一方の扉にペットが外に顔を出すことを可能とする首穴を設けたペットの乾燥機とする。

いずれか一方又は両方の扉に首穴を設けて、ペットが扉の穴から首を出すことを可能な構成にして、ペットが顔に温風の吹き付けを受けることをなくしたものである。ペットは顔に温風の吹き付けを受けると、目や鼻の中の粘膜や肺が乾燥してしまい病気を罹患しやすくなるが、これを防ぐためである。

請求項 11 の発明は、請求項 10 に記載したペットの乾燥機において、扉が上下方向に長大な長穴を有するものとし、前記扉に穴を有する首穴板を重ね、前記長穴と前記穴とで構成する開口を首穴としたペットの乾燥機とする。

扉の長穴を、上部に設けた半径の大きな概略半円弧と下部に設けた小さな概略半円弧と上下の概略半円弧を結ぶ 2 本の直線で構成すると、扉の長穴と首穴板の穴が重なってできる首穴が、上部で大きく下部で小さくなってペットの大きさに合わせた首穴とすることができるため好ましい。

以上の全てのペットの乾燥機において、籠の下に容器を設けたペットの乾燥機とすることが好ましい。

ペットを乾燥させるときにはペットから水滴や毛などが落下するが、籠の下に容器を置けば水滴や毛などが容器に収容され、容器を引き出して回収することや掃除をすることが容易となるからである。

【 実施例 1 】

【 0 0 1 0 】

以下本発明の実施例 1 を図 1 ～ 図 4 に示し説明する。実施例 1 のペットの乾燥機 1 は大型のペット用の乾燥機である。

実施例 1 はケーシング 3 と、前方部 2 a と後方部 2 e の両方を開口とした籠 2 と、籠 2 の胴部との間に隙間を設けて環状に取り巻くように配置したノズルダクト 7 と、ノズルダクト 7 を保持する直線ガイド 8 を有するものとした。

ケーシング 3 は、前面 3 a と後面 3 b と 2 枚の側面 3 c と天井面 3 e とを有する直方体

形状のものとし、仕切 3 d を設けて乾燥室 3 f と機械室 3 g とに分離した。乾燥室 3 f には図示しない開口を設けて網戸を取り付け、機械室 3 g には図示しない開口を設けてフィルタを取り付けた。

籠 2 は開孔率 80 % のエキスパンドメタルからなり、胴天井 2 b と胴床面 2 c と 2 枚の胴側面 2 d とを有し、4 隅を丸めた概略長方形の縦長断面を有する胴部として、ケーシング 3 の前面 3 a と後面 3 b に取り付けた。さらに、前面 3 a と後面 3 b には籠 2 の開口に合わせた穴を開け、その穴を塞ぐ扉 4 を前面 3 a と後面 3 b の両方に取り付けた。

ノズルダクト 7 は内側面 7 a に多数の図示しないノズルを有するものとし、仕切 3 d に取り付けた直線ガイド 8 により保持され、籠 2 の前方部 2 a から後方部 2 e までの間を移動可能にした。直線ガイド 8 は支持フレーム 8 a にレール 8 b を取り付け、レール 8 b にガイドされるブロック 8 c にノズルダクト 7 を取り付ける構成とした。 10

仕切 3 d にはスリット 3 h を設けベルト 5 a で蓋をした。また、一端においてノズルダクト 7 に結合し他端にエルボ形状を有する剛性ダクト 7 b を、ベルト 5 a を貫通させて取り付けた。

ベルト 5 a はエンドレスとし 3 隅にローラ 5 b を取り付け 1 カ所に駆動装置 5 を設けた。駆動装置 5 は 2 個の駆動ローラ 5 e でベルト 5 a を挟み、モータ 5 d で歯車 5 c を駆動し、2 個の歯車 5 c をかみ合わせるることにより、2 個の駆動ローラ 5 e を互いに逆方向に回転させる構成とした。

機械室 3 g にはブロア 10 を設け、ブロア 10 の吸込口 10 a に対して小さな隙間 10 c を設けて、吸込ダクト 10 b を取り付けて乾燥室 3 f の空気を吸込口 10 a まで導通させる構成とした。 20

ブロア 10 の吹出口 10 d には図示しないヒータ 9 a を取り付け、吹出口 10 d と剛性ダクト 7 b との間を可撓性ダクト 9 でつないだ。

扉 4 には上部の概略半円弧 4 b と下部の概略半円弧 4 d と上下の概略半円弧 4 b、4 d を結ぶ接線である 2 本の直線 4 c とからなる長穴 4 a を設けた。このとき半円弧 4 b の半径の方が半円弧 4 d の半径より大きな半径になるように構成した。

また、首穴板 6 を扉に沿ってスライド可能に拘束する 2 本のガイド 4 e と首穴板 6 の位置決めを行うためのストッパ 4 f 及びボルト 4 g を取り付けた。そして、穴 6 a を有する首穴板 6 を扉に重ねて取り付けた。穴 6 a の半径は概略半円弧 4 b の半径と同じとし、穴 6 a を首穴板 6 の小型辺 6 b 近くであって大型辺 6 c から離れた位置に取り付けた。 30

そして、小型辺 6 b を下にしてストッパ 4 f に当てると扉 4 の下部の概略半円弧 4 d の中心と穴 6 a の中心が一致し、大型辺 6 c を下にしてストッパに当てると扉 4 の上部の半円弧 4 b の中心と穴 6 a の中心が一致するように構成した。

また、籠 2 の下には容器 20 を設け図示しない取っ手を押引きすることにより、容器 20 を引き出すことを可能に取り付けた。

【0011】

実施例 1 は上記のように構成されており以下その作用について説明する。犬を洗った後に乾燥させるため実施例 1 のペットの乾燥機 1 を使用する飼い主やトリマーが、例えば前面 3 a から犬を籠 2 に入れる場合は、前面 3 a 側の首穴を塞いで後面 3 b 側の首穴の高さを犬に合わせて設定する。 40

首穴板 6 をスライドさせてガイド 4 e から抜き出し、犬が小型の場合は小型辺 6 b を下にして、犬が大型の場合は大型辺 6 c を下にして、ガイド 4 e に差し込み小型辺 6 b や大型辺 6 c がストッパ 4 f に当たるまで差し込む。また、犬が中型の場合はボルト 4 g で首穴板の高さを位置決めすることによりそれぞれの犬の首の高さに合わせる。

このようにすると、犬が小型の場合は下部の概略半円弧 4 d と穴 6 a の上方の円弧とで構成する首穴となり、犬が大型の場合は扉 4 の上部の概略半円弧 4 b と一致する穴 6 a で構成する首穴となる。また、犬が中型の場合は扉 4 の長穴 a の直線 4 c と穴 6 a の上下の円弧とで構成する首穴となる。

そして、前面 3 a の扉 4 を開けて犬を籠 2 に格納した後に扉 4 を閉める。犬が籠の中にはいることをいやがる場合があるが、後面 3 b の扉 4 から飼い主やトリマーが声をかけれ 50

ばおとなしく籠の中に入る効果が得られる。

飼い主やトリマーが声がけすると犬は首穴から顔を出して飼い主やトリマーに触れ合おうとする。このように、本発明は小型の犬から大型の犬まで自由に首穴 6 a の高さを調整可能としたものである。

その後ブロア 10 を駆動し、モータ 5 d を正転させたり逆転させると、ベルト 5 a の移動に伴いノズルダクト 7 は籠 2 の前方部 2 a と後方部 2 d の間を往復移動する。

【0012】

乾燥室 3 f の空気は吸込ダクト 10 b を通り吸込口 10 a からブロア 10 に吸引されるが、隙間 10 c があるため機械室 3 g の開口を通して導入した外気も一緒に吸引されて、ブロア 10 に吸引される空気の湿度が過度に高くなることはない。

10

ブロア 10 に吸引された空気は吹出口 10 d に設けたヒータ 9 a により加熱され、温風となって可撓性ダクト 9 と剛性ダクト 7 b を通過してノズルダクト 7 に供給され、ノズルダクト 7 の内側面 7 a に設けた多数のノズルから吹き出して、籠の胴部の開孔を通過して犬に吹き付ける。

そして、犬に吹き付けた後の湿った空気は再びブロア 10 に吸引されるが、一部はケーシング 3 に取り付けられた図示しない開口から外に流れる。

本発明では正面視において犬の体の全体に多くの方向から温風を吹き付けるよう、ノズルダクト 7 の内側面 7 a の全体に多数のノズルを配置し、かつ、ノズルダクト 7 が籠 2 の前方部 2 a から後方部 2 e の間を往復移動する構成としたので、犬の体全体にまんべんなく温風を吹き付けることができ、犬の腹や、尾と体が接触する部分や、脇の下などにも温風を吹き付け、局部的に乾きの悪い部分が生じない。

20

また、犬が扉 4 と首穴板 6 とで構成した首穴から顔を出した状態で温風を吹き付けるため、犬の顔に温風を吹き付けることがなく、犬が目や鼻や肺の病気を罹患しやすくなることはない。

さらに、犬の体から落下した水滴や毛などは、籠 2 の下に置いた容器 20 に收容されるので、容器 20 を引き出して回収することは容易である。

【実施例 2】

【0013】

次に実施例 2 を図 5 に示し説明する。実施例 2 は実施例 1 に対してダクト配管の構成を変えたものである。すでに実施例 1 に記載した内容については重複した説明を避けるため記載しない。

30

実施例 2 では仕切 3 d に明けたスリット 3 h の位置が変わっている。スリット 3 h の下に下側を開放した中継カバー 11 a を設け、仕切 3 d と中継カバー 11 a とでスリット 3 h の開口を有する中継ダクト 11 を構成した。

そしてスリット 3 h をベルト 5 a で蓋をした。また、一端においてノズルダクト 7 に結合し他端においてベルト 5 a に結合する剛性ダクト 12 を取り付けた。

ベルト 5 a はエンドレスとし 3 隅にローラ 5 b を取り付け 1 カ所に駆動装置 5 を設けた。駆動装置 5 は 2 個の駆動ローラ 5 e でベルト 5 a を挟み、モータ 5 d で歯車 5 c を駆動し、2 個の歯車 5 c をかみ合わせることにより、2 個の駆動ローラ 5 e を互いに逆方向に回転させる構成とした。

40

また、ブロア 10 の吹出口 10 d と中継ダクト 11 の間を固定ダクト 14 でつないだ。本実施例では、ブロア 10 で送風されヒータ 9 a により加熱され、温風となった空気は固定ダクト 14 から中継ダクト 11 に流れ、剛性ダクト 12 を通過してノズルダクト 7 に供給され、ノズルダクト 7 の内側面 7 a に設けた多数のノズルから吹き出して、籠の胴部の開孔を通過して犬に吹き付ける。

本実施例により、耐久性に優れたダクト配管が可能になった。

【産業上の利用可能性】

【0014】

本発明は、ペットの乾燥機を製造販売する産業、ペット関連物品を流通させたり販売する産業及びペットを対象としたトリミングサービスや獣医による医療サービスなどを提供

50

する産業に利用される。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】実施例1の正面視断面図である。

【図2】実施例1の側面視断面図である。

【図3】扉と首穴板の正面図である。

【図4】小型犬用(a)及び大型犬用(b)に首穴を設定した状態を表した正面図である。

【図5】実施例2の正面視1部断面図(a)及び側面視1部断面図である。

【符号の説明】

10

【0016】

1 : ペットの乾燥機	2 : 籠	2 a : 前方部
2 b : 胴天井	2 c : 胴床面	2 d : 胴側面
2 e : 後方部	3 : ケーシング	3 a : 前面
3 b : 後面	3 c : 側面	3 d : 仕切
3 e : 天井面	3 f : 乾燥室	3 g : 機械室
3 h : スリット	4 : 扉	4 a : 長穴
4 b : 概略半円弧	4 c : 直線	4 d : 概略半円弧
4 e : ガイド	4 f : ストップ	4 g : ボルト
5 : 駆動装置	5 a : ベルト	5 b : ローラ
5 c : 歯車	5 d : モータ	5 e : 駆動ローラ
6 : 首穴板	6 a : 穴	6 b : 小型辺
6 c : 大型辺	7 : ノズルダクト	7 a : 内側面
7 b : 剛性ダクト	8 : 直線ガイド	8 a : 支持フレーム
8 b : レール	8 c : ブロック	9 : 可撓性ダクト
9 a : ヒータ	10 : プロア	10 a : 吸込口
10 b : 吸込ダクト	10 c : 隙間	10 d : 吹出口
11 : 中継ダクト	11 a : 中継カバー	12 : 剛性ダクト
14 : 固定ダクト	20 : 容器	

20

30

40

【図 5】

